



本校では児童生徒が、活動が分かり、意欲的に学習活動に取り組めるように、児童生徒の実態に応じて、さまざまな支援を行っています。今回は本校で工夫している教材等についてご紹介します。

教材・教具の紹介

【中学部】作業学習・農園芸班の教材です。生徒が一人で4色のドライフラワーを仕分けられるように、10個に分けられた容器に4色のシールが貼られています。

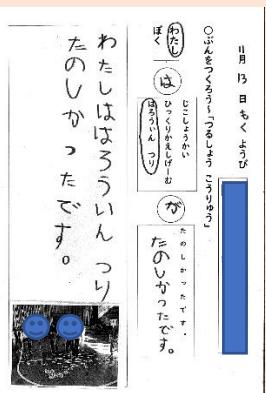


色シールのガイドがあつて分かりやすいから、一人で作業ができるよ!



千日紅ドライフラワー完成!

【小学部】行事の振り返りや感想を書くことができる学習シートです。選択肢で示したり、ピクトグラムなどのイラスト、記号を添えたりしてイメージを持ちやすくしています。また、体験したことを3語文程度の文で表せるように、定型文に沿って感想を記入できるシートです。



【高等部】人との関わりにおいて、基本的に大切なことを常に意識することができるよう、教室に視覚化して掲示しています。話合いの際に、相手を認めながら円滑な話合いができるように、ルールや進行表を手がかりにしています。

＜話し合いの進め方＞

①順番に全員の意見を聞きます。理由も聞きます。

例「〇〇さんの意見をお願いします」

②よいと思った意見とその理由を全員に聞きます。

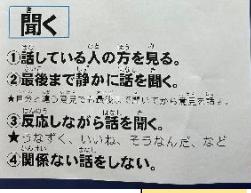
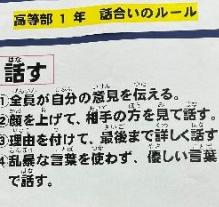
例「どこがよかったか理由も一緒に話してください」

③2つ以上の意見が出た場合、意見が絞れるように班で考える。

例「AとBの意見が出ていますがどうしますか。」

「似ている意見は一つにできないかな」

④どうしても絞れない時は、両方とも採用してよいか先生に相談し、班のメンバーのもも了解をとる。



【寄宿舎】入浴の手順表です。洗髪、洗体の順番の基本をイラストで示しています。浴室に掲示しています。生徒はこの手順表で洗う順番を確認しています。寄宿舎で初めて入浴体験をする生徒や宿泊学習でもこの表を参考にしています。



☆上記の他の学習場面でも本校で工夫している教材がたくさんあります。各学部で使用している教材の紹介のほか、実際の学習の様子、教室環境の工夫などを参観していただくことができます。また、授業づくりや個別の教育支援計画、個別の指導計画作成等についてのご相談にも対応いたします。

特別支援学校
体験研修を
ご活用ください

対象：特別支援学級や通常の学級の小・中・高の先生方、特別な支援を必要とする幼児児童生徒の教育に携わる方

日程等：本校の授業時間に合わせての実施、放課後の時間帯、長期休業中など

方法：本校に来校しての研修、参観かオンライン研修で動画視聴や相談等

高等学校への相談支援から

ゆり支援学校では、園・小、中学校のほか、高等学校を対象に学校等への訪問等による相談・支援を実施しています。今回は高校で行った支援をご紹介します。

○高等学校における事例検討会の紹介

～進路につながる生活上の課題を上げ、支援方法を出し合いました

視覚的支援

- ・図、カード、メモ、タイマー、予定表、連絡帳、ポスター掲示、アプリ



現状理解

- ・本人(周り)の困り感を共有・片付けのどこに困難さがあるかを探る・現状に気付かせる

自己管理(整理整頓など)できるようになるために

目標設定

- ・できることを本人と相談・定期的な面談・振り返りの時間を設ける



教師の働きかけ

- ・明確に示す・一度に指示しない・理由を丁寧に伝える・こまめに声掛け・一日の終りに声掛け・繰り返し・個別に・いる、いるを一緒に確認・見届け・(全体に)定期的にチェック

ルールを示す

- ・物の位置を決める・ロッカー整理のモデル・机の中の使い方・クリアファイルなどのアイテムの使い方・プリントの整理の仕方・私物に記名や番号・片付けの時間を設定

チームで対応

- ・一人で抱え込まない
- ・スクールカウンセラーの活用
- ・情報を共有

信頼関係の構築

- ・褒める・保護者とも共有・要望などを聞く

自校でできる支援について考えることで、日頃行なっている有効な支援や今後必要と思われる支援を職員間で共有できる機会になりました。また、話し合いを通して、チームとして生徒支援にあたる雰囲気が生まれるとともに、様々な視点からの先生方の気付きがありました。実践する中で、生徒の変容から支援の内容を評価・改善し、生徒の成長を先生方で確認し合う機会をもっていただけたらと思います。

自立活動コーナー

自立活動 ST支援について

(ST:言語聴覚士 Speech Language Hearing Therapist)

「話す」「聞く」など、コミュニケーションに関わることを中心に行なっている有効な支援や今後必要と思われる支援を職員間で共有できる機会になりました。また、話し合いを通して、チームとして生徒支援にあたる雰囲気が生まれるとともに、様々な視点からの先生方の気付きがありました。実践する中で、生徒の変容から支援の内容を評価・改善し、生徒の成長を先生方で確認し合う機会をもっていただけたらと思います。

ST支援の流れ

1	2	3
児童生徒の言語に関する実態や課題等を記入したST連携ファイルを事前に提出	1回目の授業参観 授業参観後、言語聴覚士さんと支援の仕方等の意見交換	2回目の授業参観 授業参観後、児童生徒の変容について意見交換

例えば…

発音が不明瞭

→1文字が1音であることが分かることに、音に合わせて手をたたく、文数に合わせておはじきを置いていく課題の提示の仕方もある。



さ行が苦手、滑舌が悪い

→舌を上下横に大きく動かすトレーニングが効果的普段から話すスピードを意識して、ゆっくり話すトレーニングをする。聞き手がゆっくり応答することで、話し手もゆっくり話すといわれている。



など、専門家の視点から具体的なアドバイスをいただき、日々の生活に生かしています。

先生方のお悩みや疑問にお答えします。ご連絡、お待ちしています。

秋田県立ゆり支援学校 地域支援部

TEL : 0184-27-2631 E-mail:yuri-s@akita-pref.ed.jp

